市政を問う！

令和3年第2回定例会・令和3年第3回定例会 議案質疑・一般質問

令和3年 第2回定例会 **6月** 16日 17日 18日 21日

令和3年 第3回定例会 **9月** 7日 8日 9日 10日

●質疑…
市長に対し議案の内容や提案の理由などについて、疑問の点や不明な点を問うこと。
●一般質問…
議員が本会議で一般事務や将来に対する方針など市政全般について質問すること。

絆　辻内（つじうち）　裕也（ゆうや）

■ AI 活用型オンデマンドバス導入推進事業について

質問　**高齢者の免許返納者増加により公共交通へのニーズが高まっている。この度、AI 技術を活用したオンデマンドバスの実証実験を実施するための予算が計上されたが運行方法について問う。**

答弁　AI 活用型オンデマンドバスとは、エリア内に設置した乗降拠点の範囲において自由に移動できるシステムとなる。利用受付はスマホアプリの他、アプリの利用が困難な方にも配慮し、電話による受付も可能にしたいと考えている。受付後は AI を活用し、乗客の乗り合い状況や目的地等を勘案して最適なルートを検索することで、利用者、運転手双方にとって効率的な配車が可能となることを期待している。

実証実験の実施時期については事業者を選定した上で令和４年１月頃の実施を目指し、実施エリアについては利用者数や高齢化率、既存交通事業者との競合可能性などを踏まえて総合的に判断していく。尚、実証段階においては乗車運賃を無償で運行したいと考えている。

■ 道路空洞調査について

質問　**今回の予算計上は市道上之輪嘉例川線において発生した道路陥没に起因するものだが、今後、道路空洞調査を広域的に実施する予定はあるのか問う。**

答弁　類似の環境下にある市道については、日々の道路パトロールや点検を通して道路舗装面の亀裂や沈下の予兆に注視しながら、空洞調査の必要性を判断していきたい。

フォーラム新桑名　伊藤（いとう）　真人（まさと）

■ 新型コロナウイルスワクチン接種について

質問　**接種率の目標および今後の接種対象者について**

答弁　60 ～ 70%を目標としており、対象者数は8万9千人になる。

再質問　**他市の例では、ウェブや電話予約で混乱が生じた場合もある。LINE やホームページの活用等、他市の取組みを取り入れるべきと考えるが市の見解は。**

再答弁　ウェブサイトとコールセンターによる一括管理予約を予定している。混乱がないよう取り組んでいく。

■ 新型コロナウイルス感染症拡大の防止と経済対策について

質問　**新たな経済対策について**

答弁　商工会議所から支援を求める要望書を受理しているので、早急に立案していきたい。

質問　**公共施設利用制限の解除基準について**

答弁　県の基準をベースとしつつも、近隣県市の基準の動向を注視し、迅速かつ柔軟に基準を見直している。

■ まちづくり協議会について

質問　**まちづくり協議会の役割について**

答弁　地域課題に対応するための、自治会をはじめとした様々な地域活動団体、地域住民などの力を集結し、「地域のことは地域が決める・地域で取り組む」という地域で支えあう新たな仕組みの主体がまちづくり協議会の役割と考えている。

桑風クラブ　諏訪（すわ）　輝富（てるふみ）

■ 防災について

質問　**令和３年３月７日（日）に実施の防災拠点施設運用訓練の成果と課題について**

答弁　令和２年 11 月、市におけるジャ害時の物資と医療救護の拠点施設である「桑名市防災拠点施設」が開所した。令和３年３月７日の運用訓練には、市職員・物資に関する協定を締結している企業・社会福祉協議会・民間ボランティア・応急救護所設置に関わる桑名市医師会など１３団体約１００名が参加した。訓練の内容としては、発生が懸念される南海トラフ地震を想定し、防災拠点施設への市職員・関係機関の集結、支援物資の受請、受入、仕分け、避難所への配送、医療救護所設置などを時系列ですすめるオープンシナリオ方式で行った。訓練の一番の成果は、業種・業態が異なる様々な組織が準備段階から一同に会し、災害時に市民を守るために、各々組織が果たすべき役割について意見を交わす中で、顔の見える関係が構築できたことであると考えている。しかしながら、協定締結機関との連携体制と災害対策本部組織のあり方等については課題が残った。指揮命令系統に一貫性がなく、各組織間の連携状況を総合調整する機能が欠けていたため、今後、災害対策本部組織を機能別組織へと再編することなどを検討している。これからも、継続的な訓練実施により、災害対応レベルの向上を目指していく。

未　来　近藤（こんどう）　浩（ひろし）

■「高齢者の特殊詐欺被害」について

質問　**発生件数と被害額、被害防止対策は？**

答弁　令和２年、10 件（約 2,650 万円）発生。被害を防ぐため、広報やホームページによる啓発等を実施する。また、電話機用防止装置の一部補助も検討していく。

■「国道１号の整備」について

質問　**伊勢大橋整備の進捗は？**

答弁　現在、橋脚 15 基の内 11 基が完成し、引き続き３基を整備中。継続してきた国等への要望活動が実を結び令和５年度に橋梁の上部工事に着手予定である。

■「桑部排磨線の整備」について

質問　**全線開通時期と桑部橋の早期架替えは？**

答弁　県からは明確な開通時期を示されていない。桑部橋は、令和３年度から橋脚３基の内２基の下部工事に着手予定である。今後も洪滞緩和のため、桑部橋の早期完成に向け県との連携を図っていく。

■「子どもたちの安全安心の確保」について

質問　**不審者情報の状況と対応策は？**

答弁　令和２年度、声かけや露出等が 57 件発生。保護者等へのメール配信による情報共有や警察・地域・関係機関との連携を密にし、被害の拡大防止を図る。

■「新型コロナウイルス感染症対策」について

質問　**感染拡大阻止への施策は？**

答弁　自宅療養者等急増に対応するため、新たに「プロジェクトチーム」を設置。生活支援物資の配送等を実施する。今後も県や保健所、医師会等との連携を強化し、スピード感をもって対策を講じていく。

絆　渡辺（わたなべ）　仁美（きみ）

■「育休退園」について

質問　**市では保育所（園）において「２人目を出産し育児休業を取得すると、在園する上の子が３歳未満の場合退園させなければならない」といういわゆる「育休退園」というルールがあるが、働く親には負担が大きい制度。今後の市の方向性は。**

答弁　近年の市の児童数の推移から、３歳未満児の入所、入園が若干減少傾向にあること、また、令和４年４月に開設を予定している福祉ヴィレッジ内に新たに保育園がオープンし、３歳未満児の受入れ枠も大きく増加できることなど、総合的に判断する中で、令和４年４月から育児休業に伴う一時退園は廃止し、３歳未満児のお子さんも引き続き在園できるよう進めていく。

■ 街路灯の LED 化について

質問　**市のゼロカーボンシティ宣言下において、市内街路灯の LED 化への計画などはあるか。**

答弁　現在利用している照明用の水銀灯は 2021 年以降の製造や輸出入が禁止となっている。現在、二酸化炭素の排出量削減の取組から、これまで以上に街路灯の LED 化については先進地の事例や事業者等の提案を受けなど、検討を進めている。すべての街路灯を LED に交換するには初期費用が必要となるが、環境省の補助制度などを含め検討し、今後ゼロカーボンシティの構築を目指し、調査・検討していきたいと考えている。

絆　水谷（みずたに）　真幸（まゆき）

■ 図書館への電子書籍の導入について

質問　**コロナ禍において非接触で借りてきて読める電子書籍を導入することはできないか。加えて電子化することで、長期的には図書の整理、配送などの業務を軽減しながらサービスの利便性を向上させていくことはできないか。**

答弁　現在のコロナ禍において、不要不急の外出など制限されている状況下では、非接触で読むことのできる電子書籍は、清潔で安心・安全なサービスであると考えている。電子のメリットは大きいと感じているが、現在は、全国の公共図書館の約３,３００館のうち、電子図書を導入しているのは 25 館で、三重県下では恵摩市と松阪市の２館である。電子書籍の課題として、初期導入経費が必要であることや、紙媒体の図書と比べ高価なこと、現段階ではコンテンツ数が少なく、最新の人気書籍は電子化されておらず、導入についての費用対効果がはかりにくいことが大きな問題であろうと捉えている。また、相互貸借などの図書館同士の協力活動を維持することができないことや、利用者側も読むための機器やソフトウエアが必要となるなどの課題もある。このように、図書の電子化、電子図書館サービスについては、導入に際し検討課題も多くあるが、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）推進の社会状況下において、導入環境が進むことも期待されているため、今後も続き研究をしてまいりたいと考えている。

桑風クラブ　満仲（まんじゅう）　正次（まさつぐ）

■ 多度地区小中一貫校整備事業について

質問　**用地取得の進捗状況について**

答弁　地権者の総数は 72 名で、令和３年８月下旬から順次面談交渉し、令和３年９月４日時点で 34 名の方について個別面談を行っている。今後、年内には全ての地権者と土地売買契約の締結を目指している。

質問　**試掘調査について**

答弁　74 か所の調査区を設定し、事業予定地の遺構・遺物の状況を調べた。その結果、事業予定地の東側の調査区から、主に古墳時代から平安時代にかけての土器や瓦などの遺物が出土し、人々の生活の痕跡と思われる竪穴住居の遺構も確認された。

質問　**設計施工一括方式を採用するメリットについて**

答弁　一番のメリットは設計と施工を一括で発注することによる工期短縮であると考えている。また、設計段階から施行者(国有の技術や経験を反映させ、求める学校を的確に表現した上で、より魅力的な施設整備とする点についても期待できる。

質問　**関校準備委員会の役割について**

答弁　関校準備委員会の委員は、学識経験者・元地域協議会委員・多度地区の連合自治会長・多度地区小中PTA 会長・教育関係者など総勢 22 名で構成された、地域・保護者・学校の代表からなるチームである。開校までには多くの問題や困難があると思われるが、委員の皆様と共に、これを乗り越え、令和７年４月開校を目指し、多度の子供達の為の地域の学校として、スタート出来るものと確信している。

未　来　佐藤（さとう）　肇（はじめ）

■ 官民等との協定・提携・協議会について

質問　**桑名市ゼロカーボンシティ宣言に伴う「くわなｉｏＴ推進ラボ協議会」について問う。**

答弁　地球温暖化に対して強い危機感を抱いており、市民の命と暮らしを守り、持続可能なまちづくりを目指しゼロカーボンシティを宣言した。これに伴い環境と経済の好循環を生み出す社会全体の連携による、脱炭素社会の実現に向けて協議会を設置するものである。今後、協議会の積極的な取り組みを推進し、官・民・事業者の皆様と共にゼロカーボンシティの実現を目指して参りたい。

■ 山崎乳児保育所他３施設の敷地利用について

質問　**療育センター・清風園移転後の跡地利用をどの様に計画しているのか？市民の声として、総合福祉会館（常盤町）に保育園と立体駐車場（有事には緊急避難所として利用）を併設して当該地への移設を望む強い希望がある。市の所見は。**

答弁　当該地は戦後間もなく寄付頂いた土地であり、教育・福祉施設用地として使用してきた経緯があるが、現時点では具体的には決定していない。総合福祉会館の将来的な在り方も諸条件・手法を整理の上、検討していく必要があると考えている。

日本共産党桑名市議団　多屋（たや）　真美（なおみ）

■ 生理用品の無償配布に向けて

質問　**コロナ禍で生理用品が買えない“生理の貧困”の問題が起きている。①公共施設やその他での配布②学校での配布について考えは。**

答弁　①防災備蓄品の入れ替え分を活用し、生活困窮の方への生理用品の無償配布を、令和３年７月１日より市役所と各地区市民センターで行う。桑名市社会福祉協議会での配布も検討する。②市内の各小中学校では、保健室に生理用品を備え、子供たちには困った時には保健室に来ること、身近な教職員に声をかけること等、安心して学校生活が送れるよう周知に努めている。教職員と子どもが相談出来る関係を築く大切な機会でもあるので、保健室での無償配布も続けるが、トイレへの生理用品設置も並行して実施する。

■ 国民健康保険について

質問　**国は、”保険税の引き上げ抑制のための一般財源繰入 ”に対し、自治体へのペナルティを課しているが、子育て世帯などへの独自減免は、法定外繰入を認めている。令和４年４月から、未就学児の保険税の均等割部分の５割に対し公費負担が決まっているが、国が認めている支援策を市が行う考えは。**

答弁　未就学児に係る均等割の軽減は、全国知事会や地方から国の制度改正を望む声があがり、国を動かした大変意義深いものである。本市としては、今回導入される軽減措置を、着実に実施できるよう取り組み、また今後も国の動向を注視していく。

無会派　伊藤（いとう）　恵一（けいいち）

■ 元多度中学校校長先生の【遺言】

質問　**元多度中学校校長先生が 2018 年１月 24 日小中一貫教育校問題に関し次の様に証言されました。**

1. 千人規模の学校施設を作ると言うが強引！これでは満足な教育は成立しない。

2. 多度の教育の歴史が失われる！土地・歴史とのつながりが失われる！校歌、プール、文学、北村先生の積み重ねが失われる！

3. 子の居場所がなくなる。

4. 地域とのつながり、地域の学校との触れ合いの心がなくなる！工夫では無理！元西小学校の小学生はスクールバスで青葉小学校へ通っているが、子と子、子と親、子と地域のつながりがなくなる！そして、元西小学校の運動場をいつも利用できない！

5. 複式学級は別の問題！との、≪命をかけた≫【遺言】を先生が残されましたが、お考えは。

答弁　多度中学校区で 2025 年開校を目指して施設一体型小中一貫校の整備に取り組んでいる。

質問　**小中一貫校計画からは非科学的思考・隠ぺい・すり替え・改ざん・情報操作をする人間しか生まれない。小中一貫教育校でどのような人間を育てたいのか。**

答弁　自律的に活動できる人等を育てたいと考えている。

絆　冨田（とみた）　薫（かおる）

■ 空き家除却による固定資産税の減免について

質問　**空家除却による固定資産税の減免は、財源のない桑名市においては、一番有効な手段と考える。鳴門市などでも 10 年間の固定資産税の減免など を行っている。税金を使って行政代執行を行ったり、除却後新たな建物が建てられて税収に繋がったりすることを考えると、除却による減税を行っても、財政上の負担はむしろ軽くなる可能性がある。市の見解は。**

答弁　税の減免により空き家の取り壊し、不動産の流通促進、危険空き家の除却ができることにつながれば、市民の安全安心につながるとの認識はしており、税の公平・公正の観点から減免を適用するに当たり十分に検証を行う必要があると考えている。他市町の優遇制度の調査や各課との連携を密にし、よりよい措置を検討していく。

■ 市税のクレジットカード払いについて

質問　**スマホで市税の決済ができるようになったのにクレジットカード払いができないのはなぜか。**

答弁　手数料の扱いが問題となり、クレジットカード払いを取り扱う自治体は年々減少傾向となっている。システムの改修や費用負担も発生することから導入については十分な検討が必要となる。全ての地方公共団体が参加している地方税共通納税システムがクレジットカードに対応する際には前向きに導入を検討していきたいと考えている。

フォーラム新桑名　松田（まつだ）　正美（まさみ）

■ 三重県への要望（防災対策の充実）について

質問　**先域、広報くわなと一緒に「命を守るみちしるべ＝桑名市防災マップ」が配布された。今回のマップは、これまでの文章中心のものではなく、市民の方が住んでいる地域の防災面でみた危険度が一目見てわかるものになっている、ある意味衝撃的なものだ。防災は私の議員活動の中で重要なテーマであり、市民の方がこのマップに目を通して改めて防災意識を高めていただくきっかけになればと思う。**

今回、市から三重県へ、防災対策の充実について「①個別避難計画の策定」「②福祉避難所の充実」の要望がなされた。要望の背景を問う。

答弁　新たに市町村に策定が求められることになった「個別避難計画」については、市と県が連携を密にし、それぞれが所管する施設や人材、組織の参画を得ながら策定する必要がある。また、新たな「福祉避難所」の指定については、県との連携の必要性を強く感じている。以上の経緯から、今回の県要望の提出となった。

無会派　伊藤（いとう）　研司（けんじ）

■ 新型コロナウイルス感染症から桑名市民の命を守るために！入院出来ない患者の処遇・受け入れについて…？！家庭内での「在宅療養」はダメ！

質問　**私の考えでは、「在宅療養」は「家庭内での放置」と同じような位置づけになる。**

さらに、４分の１以上が、家庭内感染との報道もある。宿泊療養施設の確保を願う！

答弁　在宅療養者の増加を受けて、本来は宿泊療養施設の確保は県の業務であるが、市としても宿泊療養施設を探していた。丁度その時、令和３年 11 月に「丘の上病院」に新築移転するヨナハ総合病院から、移転後、城南にある現存のヨナハ総合病院を、コロナ感染症対策に活用して頂けないか…？！とのご提案を頂いた。元々が病院なので、「宿泊療養施設」や「酸素ステーション」として活用できる。また、県が医師・看護師を確保して頂ければ、県内初の「コロナ専門病院」として活用できるのではないかと考えている。

絆　成田（なりた）　久美子（くみこ）

■ 消防庁舎等再編整備について

質問　**消防庁舎高台移転に伴う再編計画と今後のスケジュールについて**

答弁　消防庁舎の移転だけではなく、広域避難の場所や避難等の機能を考慮した広場、また、市民サービスの向上につながるエリア全体で考えたまちづくりの視点から整備を進める必要がある。今後は公募型プロポーザルにより公民連携の手法を活用し、創意工夫あふれる事業提案を募集するが、市民の皆様へ丁寧な説明を行いながら進めていく。

■ 食品ロスについて

質問　**循環型社会の形成のため環境への対策を進める中、桑名市の食品ロスに対する取り組みは。**

答弁　期限間近の備蓄食品の学校給食への活用や、家庭における生ごみ処理機購入助成などの取り組みを行ってきた。また新たに、庁内関係各課で連携会議を開催し、情報共有と実態把握に努めている。

■ 障害者支援について

質問　**コロナ禍支援として始まった市役所ロビーでの出店は、通所者の社会参加としての役割も果たしているが、コロナ終息後も継続できないか。**

答弁　現在 11 事業所が日替わりで販売を行っており、職員のみなら ず来庁される市民の皆様にも定着しつつある。障害者の社会参加の機会、障害者優先調達推進法の推進、障害福祉サービスの啓発といった効果もあるが、今後については公平公正な行政財産の使用の在り方など、総合的な観点から検討を行う。

絆　成田（なりた）　久美子（くみこ）

■ 消防庁舎等再編整備について

質問　**消防庁舎高台移転に伴う再編計画と今後のスケジュールについて**

答弁　消防庁舎の移転だけではなく、広域避難の場所や避難等の機能を考慮した広場、また、市民サービスの向上につながるエリア全体で考えたまちづくりの視点から整備を進める必要がある。今後は公募型プロポーザルにより公民連携の手法を活用し、創意工夫あふれる事業提案を募集するが、市民の皆様へ丁寧な説明を行いながら進めていく。

■ 食品ロスについて

質問　**循環型社会の形成のため環境への対策を進める中、桑名市の食品ロスに対する取り組みは。**

答弁　期限間近の備蓄食品の学校給食への活用や、家庭における生ごみ処理機購入助成などの取り組みを行ってきた。また新たに、庁内関係各課で連携会議を開催し、情報共有と実態把握に努めている。

■ 障害者支援について

質問　**コロナ禍支援として始まった市役所ロビーでの出店は、通所者の社会参加としての役割も果たしているが、コロナ終息後も継続できないか。**

答弁　現在 11 事業所が日替わりで販売を行っており、職員のみなら ず来庁される市民の皆様にも定着しつつある。障害者の社会参加の機会、障害者優先調達推進法の推進、障害福祉サービスの啓発といった効果もあるが、今後については公平公正な行政財産の使用の在り方など、総合的な観点から検討を行う。

日本共産党桑名市議団　石田（いしだ）　正子（まさこ）

■ デジタル社会の形成を問う

質問　**デジタル化における自治体情報システムの標準化・共通化等の状況と個人情報の保護について**

答弁　令和３年５月にデジタル庁の創設など、デジタル社会の形成に向けた関連法を盛り込んだデジタル改革関連法が成立し、公布された。

今回の法整備は令和７年度までに国の基準に適合した情報システムの移行を自治体に義務付けることで、行政の効率化と住民の利便性の向上を図ろうというものである。このシステムへの移行に際しては、現行システムとの違いの分析、運用方法や帳票の見直し等が必要となり、現在、令和７年度までの通切な移行スケジュールを検討している。また、個人情報の保護に十分配慮して業務を行っていく。

■ 子どもたちの活動や学びにおける支援について

質問　**コロナ禍における子どもたちの状況をどのように受け止め、支援していくか。**

答弁　児童・生徒からスクールカウンセラーへの相談件数が、４～７月期は令和２年度の 35 件から令和３年度は 45 件と約 1.3 倍に増加しており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により心身ともにストレスを感じている子どもが一定数いるのではないかと考えられる。また、国の口蓋等によると長期休業明けに自殺する子どもが増加傾向にあることから、学校を始め関係機関と情報を共有するとともに、長期休業後には出席状況の調査を実施し、子どもたちの不安や悩みを早期に把握し、適切な支援に努めている。

未　来　水谷（みずたに）　憲治（のりはる）

■ ＧＩＧＡスクール構想について

質問　**市内小中学校では、一人一台タブレット端末を導入し、ＩＣＴを効果的に活用した学習を展開しているが、それらの取り扱いにおいて、教職員によりスキルの差があり、それが児童生徒の学習面において、影響を及ぼさないか？**

答弁　ＩＣＴ機器を使いこなすには時間がかかり、教職員間にはスキルの差がある事は事実であるが、基本技能研修を実施するとともにプロジェクトチームを構成し、ＩＣＴ活用への関心・意識向上の啓発に取り組んでいる。また、定期的にＩＣＴ支援員が各校を訪問しトラブルの対応等や授業支援、校務支援を進めている。各校においても、教員間で助け合う事で授業レベルが向上する等の姿が見られるようになってきている。今後も子ども達の学力向上につながる様、教職員のＩＣＴスキルの向上に努めて参りたい。

■ 多度山の自然保護について

質問　**現在ゴミやタバコの吸い殻等のポイ捨てが多く問題となっている。山頂は的論駐車場が特に酷く、花火の残骸がある事も多い。今後のポイ捨て対策と夜間の登山道及び駐車場の車両乗入れ禁止の考えは？**

答弁　注意喚起の看板の設置や、警察や消防団の方々に夜間パトロールを実施して頂いたが、残念ながら改善の見通しが立たず、地元からもハイキングコース等への車両進入禁止を望む声もある。今後は、花火等による火災の危険性を踏まえ、地元自治会及び関係者と協議を続けていく。

公明党桑名市議員団　森（もり）　英一（えいいち）

■ 防災について

質問　**ペット同行避難について**

答弁　多度まちづくり拠点施設をペット同行の避難所として考えており、今後、準備が整い次第、公表していく。そのほかの避難所にペットを連れての同行避難があった場合は、多度まちづくり拠点施設の御紹介、または、高台での車中避難を御案内する。今後対応が可能な避難場所を増やしてまいりたい。

■ 学校施設管理について

質問　**老朽化による修繕について**

答弁　トイレの改修については、城南小学校をはじめとする１巡目の初期に改修した学校の洋便器の割合の低さや悪臭による快適性の低下は認識している。緊急度や重要度、影響度を考慮して、快適なトイレへの改修を国の補助金を活用しながら早急に進める。

■ こども医療費について

質問　**医療費無償化の対象年齢拡大について**

答弁　大切な制度であることから、将来にわたり持続可能な制度の維持に努めるとともに、対象年齢の拡大については引き続き検討を行う。

■ 子どもの歯視検査について

質問　**数秒で歯視の検査が行えるスクリーニング検査の導入について**

答弁　医療機関等との調整、検査を行う人員や密にならない検査スペースの確保などの必要もあり、こうした課題を整理しつつ、国の補助制度の活用が可能か総合的に判断し、引き続き検討を重ねていく。

無会派　仮屋（かりや）　武人（たけひと）

■ 市内小中学校のトイレについて

質問　**市内小中学校は半数以上が築年数 40 年を経過しており、特にトイレの老朽化が進んでいる。市では、順次トイレの改修を行っているが、最初に改修した学校は、改修からすでに 20 年以上経過しており、酷い学校では、昼食中にも教室に匂いが届き不快な思いをしている。各学校より要望が上がっているはずだが、具体的な今後の計画は。**

答弁　本年度の改修計画が完了すると昭和時代に建設された学校については、一度はトイレを改修したことになるため、整備計画を一旦見直す時期にきている。これまでに改修を行った学校を含め、洋式便器の割合が少ない学校の早期解消が図れるよう取り組んでいく。

■ 湾岸桑名インターチェンジ付近の土地利用について

質問　**桑名市は高速、国道等に恵まれ企業誘致の推進に有利である。湾岸桑名インターチェンジ付近の今後の土地利用について、当局の見解は。**

答弁　当該地区は、市街化調整区域に指定されており市街化を抑制することを目的としている区域ではあるが、土地利用の可能性を見据え、市の都市計画マスタープランの土地利用計画では生産・物流地域として位置付け、一定の要件を満たすことで生産物流など工業系の開発が可能な地域としている。今後も、関係部局と調整、連携を図りつつ、利便性と強みを活かした土地利用を促進していく。

絆　太田（おおた）　誠（まこと）

■ 市道の老朽化した橋梁について

質問　**老朽化した橋梁が急激に増加している。市道の橋梁数と定期点検結果における４段階評価の内訳は？**

答弁　市道の橋梁総数は 607 橋であり、（健全度Ⅰ）機能に支障が生じていないもの 442 橋、（健全度Ⅱ）予防保全の観点から措置を講ずることが望ましいもの 135 橋、（健全度Ⅲ）早期対応が必要なもの 30 橋、（健全度Ⅳ）緊急対応が必要なもの０橋。健全度Ⅲの橋は、令和４年度までに修繕工事を完了予定である。

■ 学校給食センターの将来の方向性について

質問　**小学校の学校給食は、自校方式と給食センター方式があり、自校方式では民間委託を推進されているが、給食センターの将来の方向性について問う。**

答弁　多度学校給食センターについては、小中一貫校整備事業の中で自校方式を予定している。長島学校給食センターについては、引き続き幼稚園、小学校、中学校の給食を提供していく。現在は直営だが今後は、調理員数の状況等を考慮して検討していく。

■ 通学路の緊急安全対策事業の優先順位について

質問　**千葉県八街市の通学路で、児童５人が死傷する痛ましい事故が起きたことで、市は 56 箇所の通学路を整備するのに 2,985 万 3 千円補正しているが、通学路整備にかかる優先順位について市の所見は？**

答弁　優先順位は、通学路交通安全プログラムによる要望や自治会の要望を確認し、交通量の多い箇所、渋滞を回避する抜け道の危険な箇所、ガードレール等の交通安全施設の劣化状況に鑑み整備を進めていく。

公明党桑名市議員団　畑（はた）　紀子（のりこ）

■ 生理の貧困問題について

質問　**令和３年６月定例会で生理の貧困について質問したところ、当局には迅速に対応し取り組んで頂いた。無償提供配布の結果、市民の声、今後について問う。**

答弁　令和３年７月１日から１ヵ月間で市役所、各地区市民センター窓口で合計 66 パックを無償配布した。意思表示のカードの画像提示での受け取りがほとんどなら、直接感想はなかったが、感謝の言葉をいただくこともあった。今後については、今回同様に防災備蓄品の入れ替え時に必要性を考慮し検討する。

■ 生理用品の無償配布システムについて

質問　**商業施設やオフィス、学校、公共施設などの個室トイレに設置したディスペンサーに専用アプリをかざすと無料で生理用品が提供される「オイテル」というサービスがあるが、この「オイテル」導入について市の考えを問う。**

答弁　このサービスは、令和３年８月に提供が開始されたばかりでニーズ等今後の動向を注視していく必要がある。導入の可能性については、他市の状況を鑑みながらオイテルサービスを一つの事例として、牛理に伴う負担を軽減するための持続可能な仕組みづくりについて検討していきたい。

絆　森下（もりした）　幸泰（ゆきやす）

■ インクルーシブな社会の実現に向けて

質問　**インクルーシブな社会の実現には、障がいをもった児童・生徒が他のお子さんと同じように、普通に地元の学校に通い、地域で一緒に育んでいくことが必要だと考えるが、そのためには教員の配置や学校施設の対応など様々な課題がある。令和３年の４月にバリアフリー法が改正され公立学校が対象となったことから、今回は現在の市内の公立学校のバリアフリーの対応状況と今後のバリアフリーへの対応の方針を質問する。**

答弁　平成 11 年以降に整備された学校については県の条例に基づいてバリアフリー基準に適合した施設となっているが、それ以前に整備された学校では未対応のため手すりの設置や段差の解消など、部分的な改修で対応している。今後は、大規模な施設改修時を中心にバリアフリー基準に適合するような施設整備に努め、子どもたちの学びの基盤となる学校施設の整備においても、誰かとり取り残さない持続可能なまちづくりを目指して取り組んでいく。

再質問　**施設の都合によってお住まいの地区外の学校を選択し通っている例もあるが、今後の整備方針において、障がいを持った児童・生徒が地元の学校に通えるように整備をすすめていく考えはあるのか？**

再答弁　障がいを有する児童・生徒が安全・快適に通学できることが前提だが、できる限りお住まいの地域の学校に通えるよう、施設整備に努めていく。

桑風クラブ　市野（いちの）　善隆（よしたか）

■ 防災体制強化を目指した市内企業育成「入札制度改革」について

質問　**令和３年７月、熱海土石流災害の復旧現場の映像は、市内企業の活動無しに早期復旧はあり得ない事を物語るものであった。これまで防災体制強化を目指した入札制度改革を提案してきた。入札制度に関する業界団体との協議が令和３年７月に行われたが、大きな前進は無かったとお聞きしている。業界団体からの要望は、総括すると県に準じた入札制度への改善である。強く改善を求める。**

答弁　令和３年７月の業界団体との協議は、非常に有益な意見交換の場となった。これまでも、業界団体からの要望を踏まえて、他自治体の状況を参考に入札制度の改正を行ってきた。入札制度は、公正・公平・透明性が求められることから、国・県の動向も踏まえて常に改善に心がけていきたい。

■ 地震発生時「マンホール浮上防止対策」について

質問　**市は地震発生時には高台への避難を呼びかけている。近年の地震被害での液状化によるマンホール浮上で避難困難者の発生等の課題が指摘されている。マンホール内に鋳物製ブロックをはめ込み重量化することで液状化を防止する工法もあるが、市の所見は。**

答弁　平成 18 年度の国・県の通達に基づき、マンホール埋め戻しの際には良質土等による締固めて固化する工法で対策を行っている。通達以前に施行済のマンホールについては、ご紹介いただいた工法を含め調査・検討していきたい。

桑名市議会議員　南澤幸美（みなみざわゆきみ）
副議長　愛敬重之（あいきょうしげゆき）
監査委員　倉田明子（くらたあきこ）

議長・副議長・監査委員の３名につきましては、議会の運営を円滑に進めるため、また、より公平・公正な立場を尊重し、一般質問並びに議案質疑等は自粛させていただいております。

編集　桑名市議会広報広聴委員会

委員長　愛敬　重之
副委員長　諏訪　輝富
委　員　多屋 真美／水谷 憲治
森 英一／冨田 薫／伊藤 真人

議会に興味を持っていただけるよう、「読みたくなる議会だより」を目指し、広報広聴委員会の委員7名で編集を行っています。
皆様にとって、身近な議会になるよう今後も努力いたします。